

# 奈良言友会会報

# まほろば



藤原宮跡の蓮と畝傍山

畝傍山 松の背に生ふ 雨霧に 古人の思ひ しのが懐かし

# 第16号

平成27年9月発行

# 例会報告

## 2015年5月10日(日) 例会報告

### 第1部 自己紹介とサイコロ3分スピーチ

初めて参加された方があったので、自己紹介をしました。いつもより長めにやっておこうと下の項目を列挙し、いくつかを選んで、話してもらいました。

・出身 ・趣味、特技 ・長所、短所 ・セールスポイント ・自分を動物に例えると何か? ・その他  
みなさんけっこう楽しい雰囲気です。自分を動物にたとえたら何?ではネコ、ネズミ、ゴリラ、クマ、牛などいろいろ出ました。

・サイコロを振って出たテーマで3分間スピーチ

最初のひと振りで思い浮かばなかったら、2度振りも可。3分経ったら鳥の声で知らせるというルールで行いました。サイの目のテーマは次の5つです。

・よかった映画、本、テレビなど ・うれしかったこと、楽しかったこと ・困ったこと、失敗したこと  
・今、はまっていること ・気になるニュース ・楽しみにしていること

日常の中で、何を話すかをじっくり、考えて準備して話す場合もありますが、指定されたことをとっさに話さねばならないこともあります。今回は後者に備えた練習とも言えましょうか。

#### <参加者の感想>

○自己紹介でテーマを設定していたのがよかったです。 I・H

○人が興味を引く話を主題にしようと思いました。日常会話や仕事のうえでも役に立ちそうです。 M・K

○自己紹介や三分間スピーチの中で、それぞれの方の生きざまと人柄が表れていて、その方の魅力が感じられました。お互いを知り、その中で安心して自分のことを話せる場はいいなあと感じられました。 M・I

○人前で話すのが苦手なので、吃音を気にせず話す機会を得られてよかった。それ以上に人に伝えたいことを普段から意識して話題を持っておく必要性を感じました。 T・H

○サイコロで話題をふる3分間トークで、すぐ思いつかず困ったが、なんとか話せた。 T・J

○何回やっても3分間スピーチはいいものだと思います。 Y・T

○会員のみなさんの近況を知ることができて良かったです。 N・A

### 第2部 吃音とライフヒストリー

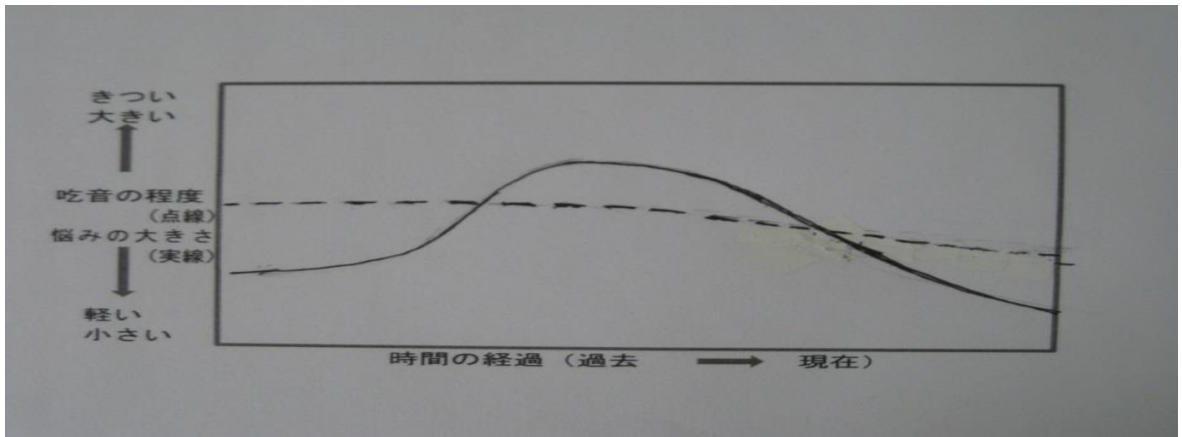
### 参加9名

言友会に参加しているひとは、吃音との長い付き合いの中でそれぞれの吃音の程度や悩みの大きさは変わってきていると思います。今回は、吃音の「きついー軽い」の程度と、吃音の悩みの「大きいー小さい」の変化を、それぞれの人生の時間経過の中でとらえ、グラフにして見ることを考えました。

入学、卒業、就職、結婚など人生での節目の出来事を横軸に、吃音症状の軽重の変化を点線で、悩みの深さの変化を実線で、縦軸にとってグラフにしてもらいました。症状の程度、悩みの深さはともに主観的な評価としました。そのグラフを15分くらいでつくってもらったあと、各自に、ホワイトボードに板書しながら発表してもらいました。

グラフを見るとひとり一人、グラフの形も違ったものになり、点線と実線の関係も興味深いものでした。ひとりの方のグラフの大まかな形を例にとると(下図)、青年期に吃音の悩みがぐっと大きくなったが、吃音と付き合いながら、福祉職として対象者と向き合う中で、吃音の程度はそれほど変わらないが、吃音の悩みはずっと小さくなっていったという経過が表れています。

悩みで言えば、一般にやはり青年期の卒業、就職などの時期をめぐって悩みが深くなるという傾向があります。また、吃音の程度と悩みの深さは、必ずしもそのまま対応するものでないこと、吃音の悩みはその人の状況、人生への向き合い方に左右されることなどもうかがえました。



### <参加者の感想>

- 吃音の悩みは考え方で変わるものだと思います。 I・H
- 自分の吃音史を振り返る良い機会となりました。グラフを見て吃音と前向きに付き合い続けたいと思います。 M・K
- 吃音とライフ・ヒストリーでは、学生時代に症状も悩みも厳しい方が多く、小学校の通級指導で吃音に向き合うものとして、よりもっと子ども達といっしょに歩んでいけるよう努めていきたいと思いました。 A・I
- 他の人が、吃音がありながらも、きちんと社会生活を送っているのを知り、自分も頑張っていこうと励みになりました。自分のライフ・ヒストリーを省みることもできて、今後の吃音に対する取り組みに活かしたいです。 T・H
- 吃音の「きつさ」や、心の変化をグラフにしてみて、改めて自分の歴史を振り返った。 T・J
- 客観的に自分を振り返ることができて良かったです。 Y・T
- 当事者の方が、これまでどのように吃音の症状や気持ちに変化してきたかを知ることができて良かったです。 N・A

<特記>この例会に、3年前、中学生のときに奈良言友会のサマーキャンプ（第1回ことばの親子交流会）に参加したSさん（今は高校生）が飛び入りで参加してくれました。その交流会では、参加の子ども達の中で彼女だけが中学生だったこともあり、会場に入りにくかったことを思い出します。その彼女がみんなの前で、近況や今の気持ちなどを率直に話してくれ、あとで次の感想を寄せてくれました。「自分と同じ吃音の人と時間を過ごせてよかったです。自分だけじゃないんやというふうに思いました。あと、アドバイスをもらって、今あなたが言ったことは全部みんなに当てはまると言ってくださって、すごくうれしかったです」と。

## 2015年2月例会報告 7月5日(日) 例会報告 参加10名

### 第1部 ことば力を高める。思いが伝わる話し方をトレーニングしてみよう。担当・報告 堀

以前、私は「ことば力向上セミナー」（日本話しことば協会の主催で、講師はフリーアナウンサーの福森ひとみ氏）を受講し、スピーチ、トーク、プレゼンなどについて学びましたが、その中で行われた多くのワークの中から、スピーチワークのひとつをやってみました。

スピーチの内容、構想の組み立て方、スピーチの仕方についてセミナーで聞いてきたことを説明したあと、それぞれ、それに従って考えた内容をメモ用紙に記入して準備してもらいました。

スピーチのテーマは「心に残った〇〇（経験、本、詩、映画、旅行・・・）」としてそれぞれが選んだテーマで発表しました。

内容を吟味する時間をとっておこなったからか、みなさんのスピーチは、分かりやすく、興味深い心に響く

スピーチが多かったように思います。みなさん、リラックスして話を楽しんでおられましたが、どもること気にせず話せる環境の大切さを思いました。

<参加者の感想>

- スピーチのポイントが分かりやすく、つかめました。 I・H
- ただ話すだけでなく、聞き方なども重要。質疑応答も必要。 Y・T
- 皆さん話が上手で、内容がすごく理解できました。 I・Y
- 久しぶりの3分間スピーチで緊張しました。 M・G
- 言葉にして伝えることはとても難しく、頭の中でまとめる訓練が必要かなと感じました。 N・Y
- 山崎さんから蘇州が一番なつかしい感じがすると聞いて興味が湧きました。 T・H
- 皆さんの心に残った話が聞けて、また、自分の心に残った話を思い起こせて良かったです。 K・T
- みなさんでスピーチして、人柄がわかったのでよかったです。 K・Y
- スピーチ・ワークの中で、みなさんの心に残ったことをお聞きし、それぞれ心にしみわたる よいお話でした。 A・I

## 第2部 スピーチトレーニング「今後の人生設計」「休日の過ごし方」 担当・報告 市田

お題を基に、スピーチ訓練を行いました。参加者の今まで知らなかった面も知ることができ、相互理解が深まり、楽しく進行することができました。例会でのスピーチ練習を通して人前で話す事の苦手意識の克服につながればと思います。

<参加者の感想>

- 皆様の色々な話が聞けて良かったです。 I・H
- 話すときのテクニック。抑揚、スピード、板書、身振りなどについても勉強したい。 Y・T
- 自分自身は何もないのですけれども、皆様のお話で自分のできること、やる気を出して、行動を起こすこと（ボランティア）は大事だと思います。 I・Y
- スピーチが少しむずかしいテーマだったので、少し緊張しました M・G
- 思い通りの将来設計が築ければよいのですが・・・、明日のこともわかりません。 N・Y
- 私のような70歳をこえた者にとっても、これからの人生どう生きるかというのは切実な問題です。これを考え、みなさんに話す機会が持てて、たいへんよかったです。 H・S
- 市田さんの独立志向のお話を聞いて、自分も自己研鑽しなければと思いました。 T・H
- まだまだ人生設計のことは多いはありますが、同じ吃音の方の話を聞き、また違う目線で考えるきっかけになりそうです。 K・T
- 皆さんマジメだなと思いました。マジメな方々で夫も安心していると思います。いい友達ができると思います。 K・Y
- これからの人生設計ということで、今まで大人になって、こういうことを考える機会がなかったので、お話をすることで、自分の人生を振り返り、まとめることができました。みなさんの人生設計も大変役立つものでした。 A・I

## 第4回ことばの親子交流会

日時：7月26日（土） 於：生駒山麓公園 報告：堀 茂

恒例になった「ことばの親子交流会」は、今年は第4回を7月26日、奈良言友会の主催で、昨年と同様、生駒山麓公園（奈良県生駒市）で開催されました。

参加したのは、奈良県下の吃音のある子どもときょうだい18人、保護者13人、ボランティアスタッフとして、ことばの教室などの先生、医師、言語聴覚士などの専門職の方々、学生、奈良言友会の当事者など計18人、全部で49名の大勢が集いました。毎回参加する人、今年新たに参加した人も、こども達と一緒に元気に、うれしそうに会場するのを見て、今年も開催できてよかったと思いました。

午前10時の開始、アイスブレイクの自己紹介ゲームで、緊張をほぐしたあと、子どもたちはスタッフとチームを組んで、フィールド・アスレチックに挑戦。子供たちは、暑い中、水分を十分に補給しながら、小学生から中学生まで年齢の差を問わず、元気に楽しくあそび交流していました。

おとなは屋内で研修。今回は、言語聴覚士、秋田靖子先生による吃音の基礎知識を学び、グループに分かれての話し合い、小児科医、佃宗紀先生による吃音Q&Aを行いました。佃先生は自らの吃音の体験を交えながら保護者からの質問に応え、保護者の方々は意見を交換しながら、子どもの関わり方に役立てようとしておられるようでした。

子どもたちが外から戻って、お風呂で汗を流してから、全員が林間に設定されたバーベキューサイトに移動。こどもグループと大人グループに分かれて炉を囲み、和気藹々の楽しい集いになりました。暑い中にも、周囲の木立から時折涼しい風も通り、保護者の方々にとっては親睦の深める機会にもなり、子どもたち同士友達もできました。自己紹介では子どもたちも元気に発言していました。

実施したアンケートでは、「楽しかった」「親子で参加できてよかった」との声が多く、また「言友会の当事者の方たちが、この親子交流会を企画、運営していることが、われわれ家族の力になります」という声もあり、励まされる思いがしました。日頃、学校で孤立しがちな子ども達も、仲間と楽しい時間を過ごした体験は貴重なものですし、また保護者にとっても楽しくも有意義な会になったと思います。

参加されたご家族と子ども達、ボランティア・スタッフとして自発的に参加いただいたの方々、協力いただいた方々に心から感謝いたします。

## 「花田景子さんの講演会」

市田 浩志

先日、橿原の万葉ホールで、貴ノ花親方の奥さんと、元アナウンサーの花田景子さんの講演会があり行ってきました。彼女のアナウンサー時代ファンでもあったので、大変楽しみにして行きました。その中で特に心に残った話を紹介させていただきます。

現在女将さんとして部屋の若手の相談をよく受ける事が、ある入門5年位の若者が相撲を辞めたいと言ってきたそうです。番付も上がらず、苦しい練習で仕方ないと思い親方に相談したところ、今辞めたところで、社会に迷惑をかけるだけで申し訳ない。あと半年頑張っ続けてもらってから、もう一度どうするか決める様にとの助言があり、その事を、若者に伝えたそうです。するとその若者は何を思ったのか、部屋のゴミ出しをしつかりやりますと答えたそうです。その後ゴミだしに関しては、きっちりとやり続け、ほめたりもする中で、目付きも変わりだしたそうです。新弟子も入門し、ゴミだしの指導も行ったりする様にもなってきました。6ヶ月後、約束通り、女将さんがどうするか聞いたところ、僕が辞めたら部屋のゴミだしはどうするんですかという答えがかえってきて、結局続ける事となり、現在では部屋のちゃんこの責任者という重要なポジションを与えられているようです。番付は変わってないようですが、この様に、人を伸ばすには目をかけて、期待の言葉をかけてあげることが重要だとおっしゃっていました。部屋の方針として、部屋を辞めても社会で通用するような人材育成をしているとのことでした。

大変、いい話を聞いて良かったです。

## 吃音人物誌その2 「後漢の梁冀」と「魏の明帝」

山崎 貴浩

少し難しい四字熟語に「跳梁跋扈（ちょうりょうばっこ）」という言葉がある。「跳梁」とは「あちこち飛び跳ねる」、「跋扈」とは「力強くのさばる」という意味であり、例えば「魑魅魍魎（ちみもうりょう）」の類が跳梁跋扈する恐ろしい世界」という感じで使われる。この「跋扈」と語源となったのが中国・後漢時代の「梁冀（りょうぎ）」である。中国の歴代王朝の滅亡にはパターンがあって、ほとんどが外戚の専横と宦官の跋扈により弱体化していく。（日本でもそうだが）王朝も創始の時期を過ぎて安定期に入ると皇帝が若死にするようになる。なぜ早死にするのかいくつかの原因が推測できるがここでは触れない。皇帝が若死にすると残された幼い皇子が即位し、そうなると幼皇帝の母親の一族が権力を振るうこととなる。また皇帝が住む後宮には皇帝以外の男性は入れないから、皇帝の面倒は去勢された内庭官吏＝宦官が見ることになってこれまた宦官が段々と力を持つようになってくる。宦官という制度は日本に無いので理解が難しいが、大奥の春日局と側用人の柳沢吉保を足して2で割った感じを想像してもらえればいいかと思う。最後には外戚と宦官が権力争いをして国が滅びるのである。梁冀は後漢王朝滅亡の遠因を作った権力者である。彼の妹が皇后となって梁冀は権力を振り回すようになる。生まれつき鳶肩豺目（えんさいけんもく。猛禽類のような肩と狼のような目をしている。）で、眼光鋭く周囲を睥睨し、言葉はどもって聞き取りにくく、わずかに書と計算に長じていた。と、史書に書かれている。好き放題に遊び回って、酒を好み、賭博や鬪鷄などのゲームを好んだともある。皇帝（沖帝）が崩御すると梁冀はまだ子どもの質帝を立てた。質帝は幼くして聡明であり、梁冀の驕慢と専横を知り、群臣を朝見する際、梁冀を見やって「これは跋扈將軍（ばっこしょうぐん）である。」と言ったのである。梁冀はこれを聞いて将来自分に災いすることを恐れ、毒を加えた煮餅を皇帝にすすめさせ、帝はその日のうちに死んでしまった。さて、そんな梁冀も妻の孫寿には頭が上がらなかったようである。孫寿はその時代にしては珍しく姓名がはっきり伝わっている。つまりそれほどの猛女であったのである。夫婦して猛々しかったのだ。孫寿は性格はきつかったが美人でもあったようである。当時の女性のファッションリーダーで、数々の新しいファッションを生み出したため世間の女性はこぞって孫寿のファッションを真似たと言われる。彼女が考案したファッションは「齟齬笑」（虫歯の痛みに耐えながらのような笑み）、「愁眉」（愁いを込めたような三日月眉）、「啼粧」（泣きはらした様な目元）、「墮馬鬢」（左右非対称の髪型）、「折腰歩」（腰を折ったような歩き、つまりモンローウォーク）などと呼ばれたが、良識ある人はこれらを縁起が悪く不吉であるとして梁冀一族の没落に関係づけたが、これらの化粧法は現代にも通じるものがある。夫婦は権力を維持するため一族の娘を自分たちの娘と偽って皇帝の後宮に入れたが、これがばれてあっけなく誅殺されてしまう。ちなみに日本の邪馬台国の100年以上前の話である。

明帝（曹叡）は三国志の英雄・曹操の孫である。父親は後漢から王朝を篡奪した曹丕であり、母親は三国志一の美人で有名な甄氏である。その血を受け継いで彼も相当なハンサムだったようで、望み見ると侵しがたいほどの威厳があったということから「天姿秀出」と形容されている。また、束ねた髪はほどくと漆のごとく腰まであったということである。その容貌と相まって寡黙であったことから史書によっては「剛毅果断の英主」と表現されていることもある。しかし、彼の寡黙には理由があった。吃音であったのである。明帝の評価は分かれるところであるが、大体においては賢帝の評価を得ている。明帝は30歳そこそこで崩御するが、死の直前、枕元に実力者・司馬仲達を呼び寄せ後事を託したが、明帝の死後わずか15年で魏王朝は司馬氏に乘っ取

られるのである。死の直前に徳川家康を枕頭に呼んだ豊臣秀吉の故事を思い起こさせる。明帝の最晩年（西暦238年）には日本史の重要な外交案件が起こっている。倭国の女王卑弥呼の使者が洛陽の都に到着したのである。明帝は倭国からの使者に親魏倭王の金印と銅鏡100枚を贈ったと史書に記述されている。この時の倭人のことを記録したのが日本で有名な「魏志倭人伝」である。魏志倭人伝に記された「水行10日、陸行1月」が「船で行ったら10日で、歩いていったら1月かかる」なのか「船で10日行って、それから歩いて1月かかる」のいずれなのか、邪馬台国九州説と大和説の別れ岐となっているのである。明帝が卑弥呼に贈った金印が今いずこに眠っているのか、その金印が発見されれば邪馬台国がどこにあったかがはっきりする。

□ 2015年度の年会費の納入ありがとうございました（7月末日現在。敬称略）

三島学、田平隆彦、山崎貴浩、稲植英和、西村泰弘、峠谷治美、堀茂、松本勝利、市田浩志、錦戸信和、天羽郁子、青木明大

□ 9月例会の案内

日時：9月6日（日） 13：30～16：30

<前半> 「シャドーイング」とは 担当 錦戸

シャドーイングについて説明し、参加された方にシャドーイングを  
実践していただきます。

<後半> 「吃音のアセスメント」について 担当 天羽

奈良言友会例会

日時：毎月第1日曜日 13：30 ～ 16：30

場所：奈良市はぐくみセンター（JR奈良駅西口 南へ歩3分）

※予定は変更することがあります。

奈良言友会連絡先	堀 茂（ほり しげる。わいと年配です。） 〒636-0915 生駒郡平群町春日丘2-13-15 TEL/Fax0745-45-2857 090-9610-6393 <a href="mailto:sigeru1030@yahoo.co.jp">sigeru1030@yahoo.co.jp</a>
	青木 明大（あおき あきひろ。わいと若いです。） <a href="https://www.facebook.com/akihiro.aoki.16">akihiro.aoki.16@facebook.com</a> URL： <a href="https://www.facebook.com/akihiro.aoki.16">https://www.facebook.com/akihiro.aoki.16</a>

奈良言友会HP <http://nara-genyukai.iimdo.com/>  
奈良言友会会報誌「まほろば」 編集発行 山崎貴浩